

きかわだ STATION

自立と誇りある日本をつくる

～激闘の自民党総裁選挙を振り返る～

選挙管理委員の仕事を通じて率直に感じたこと/新政権下でも保守派議員の矜持を持ち続ける
衆議院議員選挙の選挙区が変わっています。ご注意ください！

きかわだひとしが取り組む詳しい政策は下記QRコードから公式HPをご覧ください

自民党埼玉県第三選挙区支部
(衆議院議員黄川田仁志事務所)
電話 048-962-8005
FAX 048-961-8905



第99号

『きかわだステーション』
令和6年10月発行

公式ホームページ www.kikawadahitoshi.jp



～激闘の自民党総裁選挙を振り返る～

自由民主党総裁選挙が終わりました。

5度目の挑戦だった石破茂候補が、第28代総裁に選ばれました。

これまでの総裁選挙の中で、最も多い9名の候補が立候補しました。9名の候補の皆さんには、連日、過密のスケジュールの中、全国を駆け回って、真剣な政策論争をしていただきました。どの候補も、大変熱心に自らの考えを訴えていました。全ての候補に、心から敬意を表します。

選挙管理委員会の仕事を通じて率直に感じたこと

私は、今回の総裁選挙では、選挙管理委員を務めました。まさに青天の霹靂で、岸田総裁と茂木幹事長からの指名でした。私の選挙管理委員就任について、インターネット上では、色々な憶測が書かれていましたが、岸田総裁がどうして私を選挙管理委員に指名したのか、現時点でもわかりません。私は、選挙管理委員をやるからには、公平・公正な選挙にすること、また、党員の皆さんの思いをしっかりと反映できる総裁選挙にしようと思っていました。↗



総裁選挙の選挙管理委員11名。かなり議論しました。

今回の総裁選挙では、政治とお金の問題を鑑みて、お金のかからない総裁選挙にしようという方向性が党執行部から打ち出されました。例えば、前回までは各候補者は、ホテル等の民間施設を借りて、選挙対策本部を設置していましたが、今回は、無料で使用できる議員会館内の会議室を使用しました。その他、党員向けの資料の郵送やオートコール(自動音声による電話での投票依頼)も、お金がかかるため禁止となりました。但し、このルールが選挙管理委員会で明確に定められたのが、選挙の告示直前でしたので、各候補者の陣営や地方議員等地域で総裁選挙に携わる皆さんに混乱が生じました。これまでの総裁選挙では当たり前に行っていたことが今回はダメらしい、何がダメで何がよいのか？選挙管理委員会に多くの質問が寄せられ、対応に苦慮しました。

また、今回、決選投票の前に、残った2人の候補者から5分間ずつ最後の演説をしてもらうことが、投票日の前日の選挙管理委員会で決まりました。先立って行われた立憲民主党の代表選挙で同様の取り組みが行われたことや、自民党が変わることの象徴として、総裁選挙で新しい試みをして、党員や国民の皆様にアピールすることが目的でした。しかしながら、直前のルール変更の決定に、私は正直大変複雑な思いでした。今回の様々なルール変更の趣旨は一部理解できます。しかし、多くの党員や関係者が係わる総裁選挙で、あまりにも直前過ぎるルール変更だったと私は思います。**裏面に続く**

このことは、最後の選挙管理委員会でも、今後の課題として私から提示させていただきました。

また、党员への候補者情報の提供、例えば、総裁選挙に係る政策資料の郵送等については、禁止しない方がよいと思いました。実際、ほとんどの候補者陣営で、何らかの形で、総裁選挙に係る政策資料等が郵送されてきたという話が選挙管理委員会に届いていました。何がよくて何がダメなのか、よくわからないとの声も多くいただきました。3年に一度の自民党総裁選挙は、自民党员にとって、最も大切なイベントです。候補者の情報を詳しく知りたいと思うことは当然ですし、党もできる限り努力すべきです。もし、次回以降の総裁選挙で、今回のように候補者陣営からの郵送に制限をかけるのであれば、党本部負担で、全国の党员に対して、より詳しい候補者の情報が届くよ



3日間ライブ中継された政策討論会で司会を担当

うに、さらに工夫をすべきです。

今回の選挙管理委員の経験を活かして、党员の皆様が党運営に参加しているという実感がしっかり持てるよう、総裁選挙の仕組みづくりを引き続き提案して参ります。

新政権下でも保守派議員の矜持を持ち続ける

総裁選挙は終わればノーサイドと言われます。

総裁選挙期間中は、各々違う候補者を応援して戦いますが、元々は自民党の仲間です。石破茂新総裁の下、日本のために、これからも力を尽くすことは当然です。

加えて私は、保守系の議員として、日本を守ること、経済成長を目指すこと、未来に平和で豊かな日本を残すことをこれからも追求していこうと思っています。党内の会議や国会の場で、石破新総裁をはじめ、新たに党幹部や大臣なった方々に、「自立と誇りある日本」にするための提言をどんどん行って参ります。党内で議員同士が切磋琢磨することは、多くの国民の声を反映した政治の実現につながります。

これからも遠慮せず、愚直に政治に取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

衆議院議員 黄川田仁志

衆議院議員選挙の選挙区が変わっています。ご注意ください！

次の衆議院議員選挙で、埼玉3区は、区割りが変更になっています。1票の格差を是正するためです。

旧埼玉3区は、草加市全域と越谷市(大袋地区の一部を除く)でした。

新しい埼玉3区は、越谷市は全域となり、草加市全域が外れ、川口市の戸塚支所管内、安行支所管内の一部、神根支所管内が加わりました。

選挙区割りの変更は、関連法の改正により、令和4年の12月に施行されていますが、まだまだ知らない人が多いのが現状です。

詳しい住所等、右記のQRコードから確認できますので、お間違いないよう、是非、今一度、ご確認をお願い申し上げます。



赤い太線で囲んだ黄色いところが新しい埼玉3区です。

きかわだひとしとは…自民党4期目の衆議院議員。旧埼玉3区選出。党国防部会長。前衆院外務委員長、元内閣府副大臣(経済財政)、元外務大臣政務官。初当選以来、海洋政策(資源開発、安全保障、環境等)の専門家として、日本の海洋政策をリード。元国連環境計画主任研究員。越谷市に1人暮らしに妻と娘と在住。特技は剣道、空手、野球、落語。